

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年1月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4076100207
法人名	有限会社 福寿草
事業所名	グループホーム福寿草
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市北古賀731番地3 (電話) 0948-72-5558
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年12月5日

【情報提供票より】(平成20年11月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築	<input type="radio"/> 改築
建物構造	木造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年11月4日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永芳医院、大田内科外科医院、塚本クリニク、大塚歯科、筑豊病院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯に位置し、ホールの窓からは紅葉した山々や田園を走り抜ける電車を眺める事が出来心が落ち着く。それぞれの居室には掃きだしの窓があり、朝日が差し込む。1ユニットの平屋建てで開放感がある。室内は掃除が行き届き、埃やごみが落ちていなく、清潔感が漂う。おむつ交換の度に清拭が行われ、身体と環境の清潔が一体化されている。介護計画書は短期目標の期間ごとにモニタリング、評価がなされ利用者本位の介護計画が作成されており、変化があったときは現状に即した介護計画に見直されている。去年は全員で原鶴温泉に一泊旅行に出かけ楽しまれた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果はホールに置かれているが、改善課題について職員は把握しておらず、そのため取り組みも行われていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と一部の職員のみで行なわれた為、現段階ではまだ取り組みが行われていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では年間行事、利用者の状況、利用者へのサービス提供状況、評価等の報告を行ったり、要望、助言を頂いている。「地域の行事に参加して欲しい」という要望があり、全員の参加は難しいが、行事内容と利用者の体調に合わせ参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	面会に来られる家族には面会時に健康状態や暮らしぶり、金銭出納帳等の報告を行っている。遠方の方には電話や手紙で報告、金銭管理については地域権利擁護事業を利用している。家族の面会時には家族が意見や不満を言いやすい雰囲気づくり心がけている。また苦情相談窓口を重要事項説明書に記載している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	老人会や子ども会の夏祭り、廃品回収、福祉会の行事、清掃(缶拾い、草取り)に参加している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさを最大限尊重し、その人らしい人生の継続をささげ「楽しく、笑顔、穏やかに、安心、安全」をもっとうに、認知症の人の生活のあり方を地域や家族の方へお知らせし、地域で慣れ親しめる家づくりをします。(一部略)という理念を職員全員でつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールに貼られ、いつでも確認できるようになっている。職員は理念を共有し、理念に外れたことがある時はお互いに注意し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や、子ども会の夏祭り、廃品回収、福祉会の行事、清掃(缶拾い、草取り)に参加している。近所の方にはホームに遊びにきて頂くように声かけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と一部の職員のみでの聞き取りで行なわれている。評価の結果はホールに置かれているが、評価を踏まえた具体的な改善策は取られていない。	○	自己評価は管理者や一部の職員のみで行なうのではなく、運営者、管理者、職員が一緒に行なう事で共有認識が出来、外部評価はその結果を踏まえ、全員で具体的な改善策を考える事で、よりよい取り組みができると思われまます。今後の取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者1名、利用者家族1名、管理者、市職員2名、地域住民代表1名で行なわれ、年間行事、利用者の日常の暮らしぶりやサービスの提供について、また、外部評価等の報告を行なったり、参加者からの要望、助言を頂きサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	退所される方の退所先について行政と何度も話し合いを行なったり、相談員の受け入れを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受講し他の職員へ伝達研修を行なった。現在地域権利擁護事業を活用されている方が1名、また新しく入居される予定の方に活用できるように支援をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の面会時に報告をしている。遠方で面会が難しい方には電話や、手紙で報告している。また、金銭管理については1万円から2万円を預かり出納帳をつけ、レシートを出納帳に貼り付け、面会時に確認して頂き確認印をもらっている。面会のない方は地域権利擁護事業を利用している。職員の異動は報告はしていないが聞かれたら答えている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は家族が意見や不満を言いやすい雰囲気作りを心がけている。また重要事項説明書にホームの苦情処理の窓口と外部の窓口を記載している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近1年半は離職はない。また併設事業所間の異動も行なわれていない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等によって採用対象から排除していない。事業所で働く職員はそれぞれ能力を発揮し生き生きとして働いている。休日は希望を開き入れてもらえ、社会参加や自己実現の権利が保証されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権は尊重しているが、職員に対する人権教育や、啓発活動は行なわれていない。	○	理念に沿い入居者に対する人権は尊重されているが、職員に対する人権教育や、啓発活動は行なわれておらず、今後は外部研修、内部研修を問わず人権教育に対する取り組みが望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者が重度化してきている事もあり、日々の業務に追われ、研修参加の機会が作れていない。	○	段階に応じた研修に参加することにより、それぞれの職員のスキルアップができ、日々の利用者のケアに活かされサービスのさらなる質の確保が可能になると思われま。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所同士での相互訪問等を行ないたいと思っているが実現していない。	○	地域の同業者と交流する機会を持ったり、ネットワークづくり、相互訪問等の活動を行うことにより、自分たちの業務の良いところ、改善したいところを振り返り、サービスの質の向上に活かしていくことが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所としては遊びに来て頂いたりしながら、馴染んでいただき、サービスを開始したいと思っているが、ほとんどが家族等の都合によりいきなり入居になっている。事業所としては馴染みながらサービスを開始していく体制はある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	重度化が進んでおり、日々の業務に追われ、ゆっくりと利用者に関わる時間が持てず、本人から学ぶ機会作りが出来ていない。	○	運営者、管理者と話し合いを持ち、グループホームならではの支えあい出来るように努力していく事が望まれる。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が言葉にしづらい思いを日々の生活の中から、行動や表情でどのようにしたいのかをくみ取っている。また面会時に家族に聞いたりして本人の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望等を聞き入れながら、アセスメントを含め職員全体で話し合い、介護計画書やモニタリングを行なっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前に見直しは行われており、また退院後等で状態変化がみられた時は、その都度話し合いを行い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の入院は家族へ連絡を行い、その時の状況に合わせ入院の対応を行っている。また入院中は2・3日おきに洗濯物を取りに行くなど柔軟な対応を行っている。また独居生活の人に台風や災害時等、恐怖や不安感を与えないよう、一時的な非難場所としての受け入れ体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を伺い、在宅時からのかかりつけ医への受診も、ホーム対応で受診が出来る支援を行っている。又、提携医は2週間に1回訪問診療で対応を行い、受診結果は面会時や電話で報告を行なっている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に主治医、職員間との繰り返しの話し合いを持ち、その時の状態等に合わせて主治医より詳細に指導を受けたり、いつでも連絡が取れるよう体制をとっている。終末期の看取りの経験がある。ご家族が遠方におられたため頻りに連絡し状況説明の対応を行なった。また亡くなる数日前は、ご子息や管理者共ホームに泊まり、最後までご家族が望まれる看取りをされた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の居室に入る時はノックをしたり、声かけをして入室を行っている。トイレ誘導時の声かけはご本人のプライドを傷つけないよう、常に理念を振り返りながら行っている。記録等の個人情報は、事務所内に保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたい気持ちを全職員は持っているが、利用者の重度化に伴い、職員の人員配置の関係上希望に添った支援は行われていない。	○	利用者の重度化と共に人員配置の問題はあるが、利用者の一人ひとりのペースに添った支援を行うことが望まれる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食事を食べているが、利用者が重度化したことや人員配置の関係もあり、一緒に食事の準備をしたり、全利用者と職員と一緒に食事を行うことはされていない。利用者は時間差で食事をしているため、職員は数名の利用者のみとの食事になっている。	○	利用者は時間差で食事をしている。職員と一緒に食事を楽しみながら行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日から土曜日まで2班分かれて隔日に行われている。また入浴希望があれば、柔軟な対応を行うようにしている。入浴拒否がある時は、再度声かけを行い、入浴を行っていただく工夫は取られている。また拒否が強い時は次の日に入浴を行ったり、清拭は必ず行う。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を大切に、絵手紙の好きな方は相談員の方が、写生の為に柿等を持ってきてくださったり、日光浴や、利用者が作った畑の芋や芋づるの皮むきや、洗濯物をたたんだり日々の役割、楽しみごとの支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ外気浴ができるよう取り組んでいる。ラジカセを持って外で歌ったり、お弁当を持って外で昼食をしたり、戸外に出かける楽しみの機会を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかける事は行っていない。調査時、「～に行く」と荷物を抱えている利用者がいたが、職員は十分に話を聞きながら、安心できる声かけを行っていた。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所は理解しており、近隣から5名の協力も得ている。昼夜を問わずの避難訓練は平成18年に行なわれ、消火訓練は毎年行っている。AEDと通報の仕方は計画予定をしている。	○	消防署の協力を得て消火器の使い方等の訓練は定期的に行なわれているが避難訓練は簡単なマニュアルはあるが、18年以来避難訓練は行われていない。災害も火災、地震、台風、など、具体的な想定を行い、職員と利用者が一緒になって、年間を通じた訓練を繰り返し行うことを望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の摂取状況をチェックし記録されており、職員が情報を共有している。一日の大体の水分量の把握は出来てない。	○	利用者一人ひとりが一日の飲水量がどのくらい取れているか、おおよその量を職員全員が常に意識しながら関わることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、ゆったりとしたソファーが2個置かれ、それぞれが自分の思う場所にゆっくりと過ごせるようになっている。周囲には利用者が描かれた絵手紙が飾られ、季節感を思わせるツリーが飾られている。他の共有空間も清潔に保たれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室には、ダンスや鏡台、本人の使い慣れたテーブル、ぬいぐるみ等本人の好みの物が持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう配慮がなされている。</p>		